

令和2年度第1回兵庫県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会  
港湾職業能力開発短期大学校神戸校部会開催概要

- 1 開催期間 令和2年7月7日（火）から令和2年7月22日（水）まで
- 2 開催方式 持ち回り
- 3 主な議題
  - ・令和元年度事業実績等について
  - ・令和2年度事業計画等について
- 4 議事経過
  - 資料に基づいて説明を行った。
  - 主な意見は以下のとおり。

・専門課程活用型デュアルシステムの募集については、専門課程の事業主推薦をうまく活用して入校に結び付けることができないか、入校時期の変更も含めて検討してみてもどうか。

・中退率を下げる方策の一つとして各科への転科を可能とするのはどうか。中退理由の一つである学生自身の進路変更にも対応できると思われるので検討してみてもどうか。

・最近の若年者は、選択の自由度が高い内容を選ぶ傾向が強いため、授業の選択を可能とするような仕組み作りを検討してはどうか。

・神戸の物流を背負っている学校としてアピールし、高校へアプローチすることが重要と考える。

・受託研究のような事業は、企業に出向いて、「こんな研究いかがでしょうか」というようなアピールが必要であり、企業のメリットを生かした内容でないと難しいため、2年から3年の長いスパンで考えることも検討すべきである。

・港湾技能研修センターとの連携が重要であり、揚貨装置の資格取得のため大阪まで出向くのであれば、協会の装置を活用することも検討してみてもどうか。

・中退率が高いとのことであるが、経済的な理由による中退は残念である。学びたいがお金が無くて学べないということは無くして欲しい。

・コロナ禍でのイベント等による学生募集は難しいため、神戸校で実施している各種感染症対策を全面に押し出して発信し、時間をかけて環境整備を行っていることをアピールしていくことが重要である。

・技能実習が多い学校は、すべてをオンラインで出来ないのが大変であるが、時代に合わせた方法でやっていくことが必要であり、オンラインで実施するための体制を作るため、きちんと環境整備を行うことが重要である。

・学生の就職率が 100%であり人手不足産業である港湾物流への担い手を養成できるのは、西日本では神戸校しかないという点をアピールしてはどうか。

・せっかく入校しているのに、中退で辞めてしまうのはもったいない。経済的な理由など、本人の力が及ばない理由での中退がなくなるよう改善してほしい。

・神戸市として港湾事業へ入ってくる人材を確保するために、定員充足率を向上させる仕組みや定員を増やす等の検討をしてみてはどうか。神戸港振興には、若い方の入職及び人材育成が欠かせないため、協力して行きたい。

令和2年度第1回兵庫県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会  
 港湾職業能力開発短期大学校神戸校部会 委員名簿

区 分	氏 名	所 属 及 び 職 名
学識経験者 (1名)	石田 信博  (座長)	同志社大学 商学部教授
労働者代表 (2名)	高島 弘司	神戸港湾労働組合協議会 事務局長
	秋武 秀俊	日本労働組合総連合会兵庫県連合会 神戸地域協議会 事務局長
事業主団体 (2名)	稲田 重彦	兵庫県港運協会 専務理事
	森下 徹	兵庫県経営者協会 理事 事務局長
行政機関 (2名)	白川 智子	兵庫県産業労働部政策労働局 能力開発課長
	綱岡 俊宏	神戸市港湾局経営企画課 調整担当課長